

国際会長主題	「フェロシップとインパクトで次の100年へ」	Samuel Chacko (インド)
アジア太平洋地域会長主題	「新しい時代とともに、エレガントに変化を」	Chen Ming Chen (台湾)
東日本区理事主題	「未来に向けて今すぐ行動しよう」	佐藤重良 (甲府21)
東新部部長主題	「All 東新部、始動! Change! 2022 ラストスパート、ポスト 2022 始動」	深尾香子 (東京多摩みなみ)
クラブ会長主題	「心を尽くしてYMCAのために」	小川圭一 (東京世田谷)

会長 小川 圭一
副会長
書記

2022年7月会報

強調テーマ
* キックオフ *
Change 2022 PR

会計 小原 武夫
直前会長 峰 毅
担当主事 江尻 明子

↑今月の聖句

我らは神の中に生き、動き、存在する

' In him we live and move and exist '

使徒言行録 17:22-28
(峰 毅 選)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 司会 | 峰 毅 君 |
| 1. 開会点鐘 | 小川 圭一 会長 |
| 2. ワイズソングと信条 | 一 同 |
| 3. ゲストとビジター紹介 | 小川 圭一 会長 |
| 4. 今月の聖句朗読 | 峰 毅 君 |
| 5. 東新部 部長訪問 キックオフ例会 | |
| | 深尾 香子部長 (東京多摩みなみ) |
| 6. ハッピーバースデー 7/1 松井百合子さん | |
| | 7/22 小川 圭一君 |
| 7. 結婚記念日 | なし |
| 8. ニコニコ献金 | |
| 9. 諸報告 | |
| 10. 閉会点鐘 | 小川 圭一 会長 |

☀ 7月 例会 プログラム

とき 令和4年7月15日(金) 18:30~19:30
ところ 東京YMCA南コミュニティセンター3F
電話 03-3420-5361

ハイブリッド開催

6月のデータ	会員在籍	14名	例会出席者 6/17日(金)	6月のBF他献金	ニコニコファンド
	出席率	71%	会員	切手	6月 5,523円
	第2例会	(中止)	メネット	現金	年度計 72,985円
			イキャップ	累計切手	
			ゲスト		
			ビジター(含むzoom)		
			合計		
			合計		
			すずらん会(中止)	2021~2022年度	
			ゲスト	自主献金については今期に限り	
			スタッフ	クラブからの献金とする	
			合計		
			新型コロナウイルスの影響で		

※ 本日のメインプログラム

2021～2022年度も、コロナ禍で困難の中、「老人だから、やめるをやめる、生涯現役」と峰 毅会長の素晴らしいリーダーシップ、有難うございます。

さて、小川 圭一会長年度「心を尽くしてYMCAのために」スタートです。深尾 香子東新部部長と共に、高齢化、会員減少からの脱却、「Change 2022」キックオフ例会で、これからのクラブライフを語り合ひましょう。

※ 6月例会報告

江東区児童・高齢者総合施設

グランチャ東雲館長：口原恵美子さんに



(卓話要旨)

生涯現役で時を刻む

グランチャ東雲からのメッセージ

2011年4月開館

江東区：福祉部・長寿応援課

グランチャ： グランド + チャイルド (商標登録)

1期5年の指定管理者運営

現在：第3期(2021～2025年)

テーマ：地域共生社会

【つなぐ架け橋 グランチャ東雲】

年間延利用者数推移から：200,000人余りから

現在コロナ前50%まで回復に

東日本大震災被災者来館者数推移：10年間で延61,497名の方々にご利用を

一日平均利用者数

2019年度：550人

2021年度：225人 2022年5月末 約50%まで回復

活動内容

高齢者の生きがいの場所の提供

地域に開かれた施設の提供 (サークルへの貸室提供)

高齢者の健康維持：ボイストレーニング、
機能改善エクササイズ、

プールへ：水中運動エクササイズ

子育て支援：パパとあそぼう

交流促進：楽しい絵本の時間 (講座「朗読」)

地域の絆を強める活動・ボランティアの要請・場の提供

近隣小学校授業の一環：見学対応

「公共施設の役割」税金はどう使われているか

シニアが生涯現役で時を刻む

グランチャ東雲からのメッセージ

自らの健康長寿 健康の三大要素 「**運動・栄養・休養**」

誰かに必要とされる充実感：ボランティア活動・Ys活動

好きがボランティアに「見守り」「育む」「つなぐ」

「見守る輪」のひろがり： 伝承・一緒にやる

一歩ひいた ボランティア

純真無垢なこどもとの交流は ひとをかえる

子育て世代への支援：グランチャの土・日・祝日は「イクメン」がいっぱいです。

「互いに支えあい、誰もが孤立せず、安心してその人らしい生活を送ることができる「地域共生社会」の一翼を、「みつかる。つながる。よくなっていく。」というブランドコンセプトを持つ東京YMCAが、江東区と協働の元に、ともに担っていきたい。

第3期(2021～25年)のテーマは「つなぐ架け橋グランチャ東雲～ひと・まち・コミュニティそして未来へ～」です。



※ 第25回ワイズメンズクラブ国際協会 東日本区大会より

大会は全て Zoom による開催に

6月4日(土) 13:00~17:00

6月5日(日) 8:30~12:00

ホストクラブ:宇都宮ワイズメンズクラブ

開会式、祝辞、挨拶、メモリアル・アワー

東日本区アワー1:理事報告、部長報告など

○ 大久保知宏 東日本区理事(宇都宮)報告

2021~22年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年となりました。

本年度は、一般社団法人として初年度の年でもありました。

将来のための組織づくりの一年としたいと考え進めてまいりましたが、端緒に付いた状態で年度末を迎える形となりました。

次年度以降に持続可能な組織づくりを続けていきたいと考えています。

○ 2022~23年度 東日本区理事メッセージ

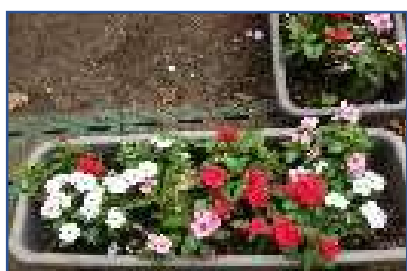
佐藤重良(さとうしげよし) 理事 (甲府21)

今年、11月15日はワイズメンズクラブ国際協会設立100周年に当たります。先人が築いた素晴らしい貴重な遺産から多くを学び、未来の100年に向けて。

東日本区の中にも、多くの課題を抱えております。Change! 2022の活動を柱に会員増強に、最重要課題として取り組みましょう。

※ YMCA 保育園ねがい

親子でガーデニング 次回をお楽しみに



※ 会長通信 2207

まずは YMCA を応援しよう。

例会では多くの YMCA スタッフの苦勞話を聞くことを柱にしたい。

また一方で地域活動を YMCA につなぐ努力も出来ないか。出来る人が、出来る時に、出来る事を。

YMCA 保育園ねがいに対するガーデニングサポートは喜ばれている。

また、Liby を応援する。YMCA すずらん会(経堂)は、地域社協が応援して再開を狙っている。下北沢すずらん会は、下北沢音楽祭と繋げてオンライン配信を行う。

国際的な交流奉仕団体の活動を楽しみたい。

会長 小川圭一

※ YMCA NEWS

- 6月8日より、夏季キャンプ・スクールの参加受付を開始した。6つの宿泊キャンプはどれも人気が高く、ほとんどが即日定員一杯となった。他にデイキャンプ、水泳、語学、音楽などの夏季スクールの募集も順調に進んでいる。
- 東京・フロストバレー YMCA パートナシッププログラムとして、現地の夏キャンプに3年ぶりに日本からリーダーを派遣した。選考された7名のリーダーが6月16日に日本を出発し、約2カ月間、在米日本人の子どもたちを対象としたキャンプのカウンセラー(リーダー)をつとめる。なお、8月13日にはフロストバレー YMCA の CEO である Jerry Huncosky 氏の退任式が行われ、松本数実氏(国際・総合教育事業部統括)他数名の職員が出席する予定。
- 6月17日に定時評議員会が開催され、役員を選任が行われた。代表理事の菅谷淳氏が重任したのと、小町正人監事に替わり、伊藤幾夫氏(元評議員)が同日をもって新監事に就任した。
- 「第20回世界 YMCA 大会」が7月3日~9日にデンマーク及びオンラインで開催される。世界各国から参加者が集い、世界 YMCA 同盟の行動計画「VISION 2030」策定に向けた協議や、役員・常務委

員の選挙の他、交流やディスカッション等が予定されている。同日程で開催される「YMCA世界大都市会議」と合わせて、松本数実氏が現地参加する他、数名のスタッフがオンラインで日本からの参加を予定している。

5. 山中湖・野尻湖でそれぞれ実技リーダートレーニングが開催され50名を超えるリーダーが学びの時を持った。スタッフ数が減っている中でOBOGの協力を仰ぎながらのトレーニングとなった。感染が再拡大している中で安全を守りながらも、子どもたちの体験と相互作用の中での成長の時を持てるように準備をしていく

6. 今後の予定

7月16日(土)～7月18日(月)	山中リトリート
7月26日(火)～7月28日(木)	山中キャンプⅠ
7月30日(土)～8月4日(木)	野尻小学生 キャンプ
8月1日(月)～8月3日(水)	わくわく デイキャンプⅠ
8月6日(土)～8月19日(金)	野尻学荘
8月8日(月)～8月10日(水)	山中キャンプⅡ

世田谷クラブ例会

Zoom ミーティングに参加する

<https://us02web.zoom.us/j/86010525780?pwd=VndQeG40WkNCOGsyZ1RUSIZQK29WUT09>

ミーティング ID: 860 1052 5780

パスコード: 304564

ワンタップモバイル機器

会費 及びファンドのお振込み 銀行口座のお知らせ

みずほ銀行 経堂支店
普通口座： 1200041
トウキョウセタガヤワイズメンズクラブ

よく知られているように、ゴジラは海底で眠っていた太古の生物が水爆実験の放射能で巨大化し、日本を襲うという設定だ。重い思想的な背景を持つ作風が特徴の武田泰淳(タイジュン)は、この架空の生物を題材に60年あまり前に短編を書いた。タイトルは『『ゴジラ』の来る夜』。▼いつどこにゴジラが上陸するのかわからず、他国に表れてほしいと各国の首脳が願う。異様の緊張感のもとで理性を失い、陰惨な衝動にかられる人の姿がブラックユーモアたっぷりに描かれる。そして東京をゴジラが襲い、「何かの光線」で町を焼き滅ぼす。それが何を意味するのか、読者の心にある一つの言葉が浮かぶ。▼核を暗喩で表す文学とは違い、21世紀の強権者の言動はあまりにもあからさまだ。隣国に侵攻したロシアの現代の皇帝は、核戦力の運用部隊に「高度な警戒態勢に入る」よう命じた。ミサイル発射を繰り返す北朝鮮への制裁を強める決議に反対し、国連の機能を脅かす。かばってもらったその国も、核の脅威を振りかざす。▼武田の思想の根底には、実体験にもとづく無常観があるという。戦争の悲惨と敗戦を目撃した彼は、滅亡について思いを沈め、これからの世界は「目にもとまらぬ全的消滅を行い得るであろう」と記した。悲観論が世界を襲うのをいかに防ぎ、国際秩序を立て直すか、勇ましく前のめりになるのでなく、理性が導く行動で。

日経新聞 春秋 2022.5.31 より

